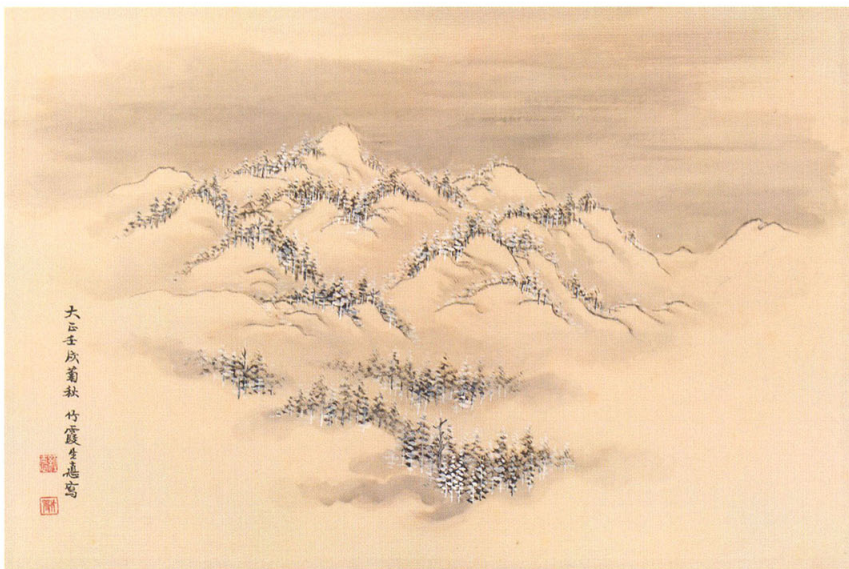




東照宮晨鼓



紀三井寺晚鐘



高野山暮雪

20 双青寮廿一勝 平尾竹霞

二帖のうち下巻

大正十一年（一九二二）

絹本着色

各三〇・九×四六・五

大正十一年（一九二二）、旧紀州藩主の侯爵徳川頼倫より献上された作品で、双青寮とは大正九年に徳川頼倫が、和歌山市の和歌浦に造営した紀伊徳川家別邸の名称である。《亀山鳳水帖》（作品番号19）と同じく京都の文人画家平尾竹霞の筆により、和歌山の名勝地を題材に詠んだ歌が絵とともに貼り込まれている。歌は御歌所寄人をつとめた阪正臣の筆による。

画中には杖を持った中国の高士風の人物や童子が

時折描き込まれ、唐土の名勝の見立てという意識が認められる。とくに下巻には「煙寺晚鐘」ならぬ「紀三井寺晚鐘」など、瀟湘八景になぞらえた画題が並ぶ。各図の画題は次の通りである。（上巻）蘆邊鳴鶴、生石峯絳旭、布引松風、観海閣春望、不老橋柳煙、玉出島夏夕、和歌川釣艇、名草山秋月、高日山紅葉、浦初島泊舟、龍門山積雪。（下巻）御手洗池勁松、東照宮晨鼓、難波崎漁火、雑賀崎帰帆、紀三井寺晚鐘、沖島晴嵐、琴浦夜雨、州崎浪華、阿波夕照、高野山暮雪。

こうした中国風の題名を付ける一方で、画帖の見開きで絵の対面に漢詩ではなく和歌を記すところには、日本古来の名所絵・歌絵からのつながりも感じさせる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan